

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	立命館アジア太平洋大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	アジア太平洋の環境保全開発リーダー育成		
主たる研究科・専攻名	アジア太平洋研究科 国際協力政策専攻 [博士前期課程]		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) SANGA-NGOIE Kazadi		

[教育プログラムの概要]

立命館アジア太平洋大学(以下、APU)では、アジア太平洋地域に限らず世界各地(世界87ヶ国・地域-2009年5月1日現在)からの国際学生が、日本人学生とともに教育研究活動に取り組んでいる。日本唯一と言える国際的環境を有するAPUは、2003年に大学院を設立し、経営・人文社会系の教育研究分野を中心として、多数の修士号・MBA及び博士号取得者を輩出してきた。本学大学院アジア太平洋研究科国際協力政策専攻(ICP:International Cooperation Policy)では、課題の理解やその実践的解決法を通じて、開発経済、国際行政、環境管理及び観光管理の分野で国際協力及びアジア太平洋地域の持続可能な発展に貢献できる高い専門性を有した人材を育成することを目的としている。現在、APU大学院には、日本を含む世界66カ国・地域からの院生が在学している。国際社会において即戦力として活躍できる人材を育成するために、プログラムは全て英語で行われている。

2006年秋には、同専攻の環境管理分野に、環境における技術経営戦略を考える「国際原料流通マネジメント・プログラム(IMATプログラム)」(IMAT:International Material Flow Management)を開設した。IMATプログラムは、1年目を日本(APU)で、2年目をドイツ(トリア専門単科大学)で学修し、双方の学位を取得する「デュアル・ディグリー」プログラムである。IMATプログラムでは、持続不可能な大量生産・大量消費社会を、持続可能な循環型経済へと転換するための技術的な面での知識を伸ばすことが可能である。家庭、産業、地域におけるエネルギー、廃棄物処理、水資源の利用と輸送等がこの学修の中心となる。このIMATプログラムでの教育・研究を参考に、APUのもつ豊富な人材や社会学の側面からの知識を活用し、APUが独自に提供できる環境教育・研究を展開したいと考える。なお、同じく2006年に、APUは学部教育において学際的な教養課程「クロスオーバー・アドヴァンスト・プログラム」(CAP:Crossover Advanced Program)を立ち上げている。CAPの1つのコースは、基礎及び応用地球環境学を中心に推進しており、多数の学生が卒業後大学院ICP専攻に進学し、同教育研究分野で学ぶことを希望していることから、APU大学院が発信する新しい環境分野の教育・研究への期待は高いものと考えられる。

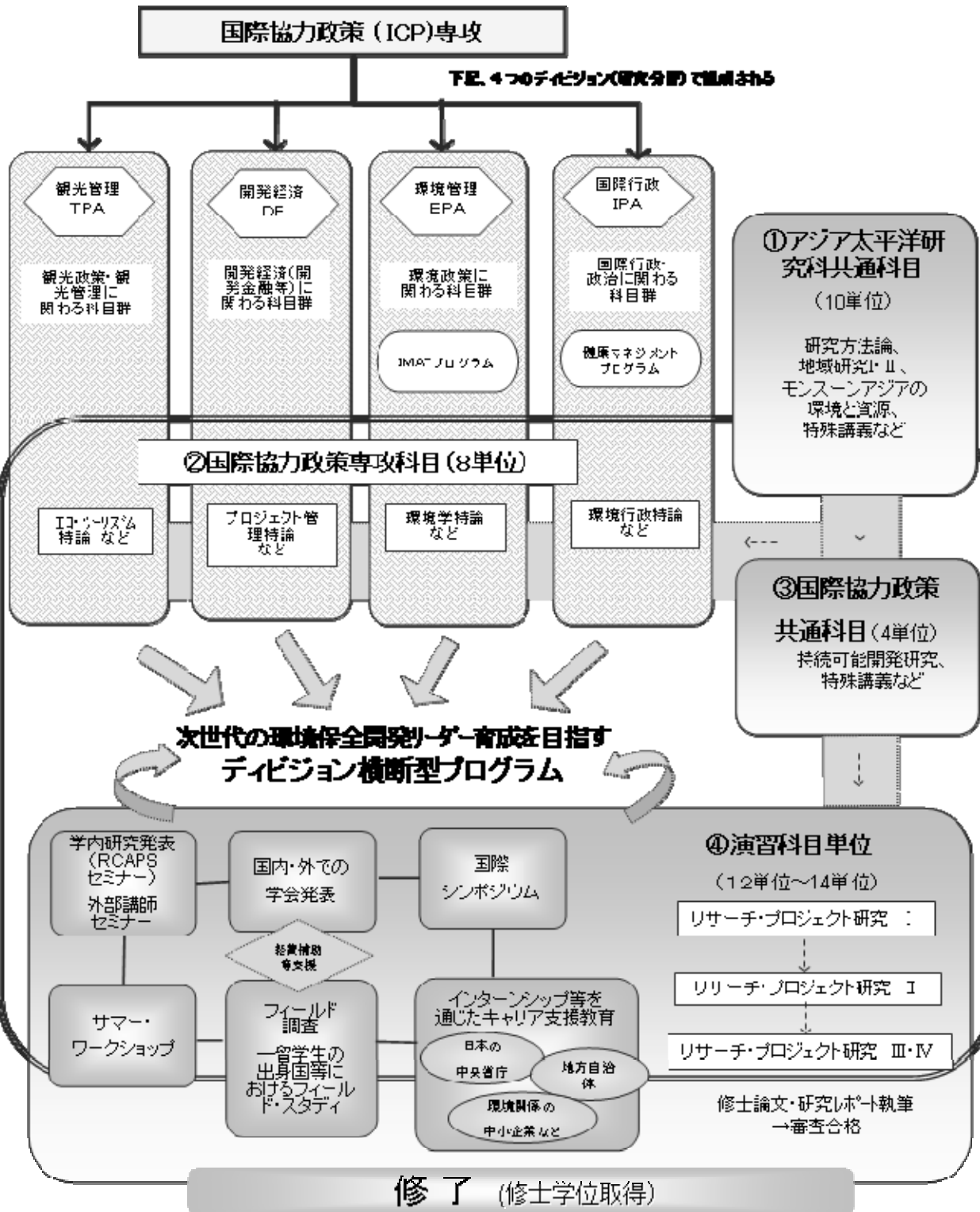
現在、循環型社会、環境に優しい持続可能な発展やライフスタイル等が世界各地で求められるようになってきた。本学大学院の統計によると、今までに提出された博士論文の約60%、修士論文の半数が応用環境科学や循環型社会のための資源管理開発に関するテーマを扱っている。APUは、既に、基礎及び応用地球環境学(環境動態解析、生物圏資源保全管理学、環境影響評価等)といった分野に優れた専門家を多数保有している。こうした研究分野をICP専攻で提供されている開発経済や観光管理などの他のプログラムと融合させることにより、当専攻の教育・研究全体を更に拡大・強化することが可能である。

これを達成するために、APUが有する自然環境科学、情報技術や観光学の専門家の強みを活かし、ICP専攻内に学際型教育プログラム「環境保全開発リーダー育成プログラム」を提案するものである。本教育プログラムでは、教育・研究活動を通じて地球生物圏の状態や変化を調査、分析、モデリングを行ったり、新しい技術や管理戦略を作成したり、地域社会経済において生物圏における物質循環やサービスの持続可能な保全・管理・開発に対する計画やシミュレーションを行うことが出来る、学際的な深い知識と優れたスキルを持った次世代の環境の専門家やオピニオンリーダー(研究者、実務者、教育者、計画立案者、企業家等)といった人材を育成することを目的としている。

本教育プログラムは、ICP専攻内の既存のディビジョン(研究分野)ー情報・社会・経営科学、開発経済、国際行政、環境管理及び観光管理分野における確固たる基礎の上に、環境動態解析学、気候変動、生物多様性、持続可能な生物圏資源保全管理学、環境技術・環境材料学、環境影響評価等の科目を提供し、基礎的な生物圏科学と応用生態学の知識・調査・解析を深める。学際的で、専門性の高い本教育プログラムでは、フィールド調査、インターンシップ、演習や学会発表を通じて、更なる充実・豊富化を目指す。

このプログラムにより、学生はアジア太平洋の視点で更に多くの知識と実用的なスキル・経験を取得することが可能となり、将来的に本学学生の国際社会への関与や貢献度が高まるものとする。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



- ※ IMATプログラム: 国際原料流通マネジメント・プログラム(International Material Flow Management)
本学とドイツ・トリア専門単科大学による共同学位プログラム
- ※ PHMプログラム: 健康マネジメント・プログラム(Public Health Management)
健康政策・健康管理・健康教育を基本骨格とするプログラム
- ※ RCAPS: 立命館アジア太平洋研究センター(Ritsumeikan Center for Asia Pacific Studies)
アジア太平洋の研究推進と研究成果の発信を担う。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「アジア太平洋地域の持続的発展と共生に貢献する人材」という、社会のニーズに対応した養成目的が明確に掲げられており、それに沿った体系的な教育課程が編成され、フィールド調査時の特別指導等充実した指導体制が整備されている点が高く評価できる。

教育プログラムについては、大学院生の国際化を目指す教育プログラムとなっており、幅広い基礎知識と専門性を兼ね備えた学際的センスをもつ人材を育成するため、特にサマーワークショップや海外フィールド調査などの各種実践的教育の取組が計画されている点は高く評価できる。ただし、継続的な教育として、質の保証のための方策を更に具体化することが望まれる。